

第二回信濃川下流(山地部)圏域流域協議会～塩谷川流域～ 議事要旨

平成 24 年 11 月 22 日 14:00～16:00

長岡市栃尾支所

1. 出席者

早川委員長、丸橋委員、権田委員、古田委員、諸橋委員、藤田委員、佐藤委員、北村委員、村越委員、小山委員、酒井委員、安藤委員（委員 12 名全員出席）

2. 配布資料

- ・資料－1 議事次第
- ・資料－2 委員名簿
- ・資料－3 座席表
- ・資料－4 第二回流域協議会説明資料
- ・資料－5 河川整備計画（案）本文
- ・資料－6 河川整備計画（案）概要版
- ・資料－7 第一回流域協議会議事要旨（修正版）

3. 会議の概要

（1）これまでの河川整備計画の協議内容について

第一回協議会における整備内容（目標、規模、改修方針、環境配慮）及び委員からの意見を説明

（2）前回協議会での意見に対する回答について

塩谷川の流量算出に用いる降雨エリアを説明

塩谷川単独での降雨確率評価を説明

塩谷川における霞堤の役割及び効果を説明

河床掘削による環境への影響を説明

河川の水質及び排水調査の結果を説明

（3）住民説明会における地元住民の意見について

住民説明会での質問及び回答を報告

（4）住民説明会アンケート結果について

10 項目のアンケート結果を踏まえて、地元より求められる事項を河川整備計画へ反映した記載内容を説明

（5）塩谷川河川整備計画（原案）について

第一回協議会や住民説明会で議論した塩谷川整備計画（案）から今回の変更点及びその理由を説明し、河川整備計画本文の変更原案を提示

(6) 今後のスケジュールについて

河川整備計画原案については、同圏域内の五十嵐川などとも足並みをそろえ、年明けには北陸地方整備局へ申請し、年度内に認可をいただく予定

4. 主な意見

○H23年洪水における霞堤が果たした役割について

【A委員】霞堤の効果を示しているシミュレーションの解析条件を教えてください。霞堤ありとなしによって、河川水位に差がでると思うが、グラフに表示されない程小さな水位差と理解すればよいのか。また、霞堤ありとなしの浸水範囲の解析では、霞堤がない場合の方が浸水範囲が大きくなる結果を説明してほしい。

→【事務局】計算条件は平成23年洪水の再現計算であるため、河川の至る場所で破堤・越水はん濫が発生し、霞堤がなくても上流からはん濫水が流れてくるものとなっている。霞堤ありとなしとの河道内の水位についてはほとんど差異がない。また、霞堤ありの場合には、はん濫水が流下してきても堤防の開口部から本川へ戻るため、浸水深や浸水範囲が低減されている。

【A委員】塩谷川の霞堤は、洪水時に本川の流量を下げるために果たす役割はあまり小さくなく、はん濫した場合の浸水面積についても霞堤があってもなくてもあまり変わらないが、越流したはん濫水が引いていく過程でそれなりの役割（排水効果）を果たしているという理解か。

→【事務局】そのとおりです。

○落差工の構造について

【A委員】落差工は魚が遡上できるような配慮をするのか。

→【事務局】今回整備する堰については、漁協などと協議しながらつくる予定であり、魚道を設置する予定である。

○サケの遡上について

【A委員】実際にサケは塩谷川のどのあたりまで遡上してくるのか。

→【B委員】サケはおおよそ文納から人面付近まで遡上している。水量が多いときには二日町付近まで遡上することもある。

【A委員】二日町付近まで遡上するのであれば、産卵区域は産卵床に対する保全等の配慮も必要ではないか。サケの遡上に対して河川工事でなにか配慮できそうか。

→【B委員】河川工事では、遡上期に河道内の工事は避けてほしい。また、刈谷田川本川ではアユ放流もあるのでそのような時期も含め配慮をお願いしたい。この点については河川管理者とこれまでもよく協議できている。

○水質調査について

【C委員】今回のような大洪水では上流域で土砂崩れなどもあったと思われ、土砂崩れによって重金属も洗い出されるようなこともあり得ると思うが、重金属系の水質調査は実

施されるのか。

→【事務局】塩谷川流域に鉱山はないため、重金属などの調査はしていない。

○整備計画区間の地名について

【D委員】整備計画本文における改修区間の終点の地名について、大字で「上塩」もしくは「塩新町」のいずれかと思うが、この場所は「塩新町」がよいのではないか。

→【事務局】改修区間の終点は「上塩」と「塩新町」の境になるが、下流に位置する「塩新町」が施行の場所を表す地名としてわかりやすいため「塩新町」とする。

○今後のスケジュールについて

【委員長】今後のスケジュール（見通し）を教えてください。

→【事務局】五十嵐川流なども足並みをそろえたいと考えている。年明けには整備局へ申請を行い、年度内に認可をもらいたいと考えている。

5. 委員長あいさつ

【委員長】

委員の皆様方には、2回に渡り協議会の審議をご協力頂きありがとうございました。昨年の大豪雨は、まさに想定外であったと言ってよろしいかと思えます。五十嵐川全体をはじめとして多くの皆様方とこの河川整備計画の改定作業をずっと進めてまいりました。昨年の大水害、大豪雨に対して、完全な対策というものができた訳ではありません。それがあまりにも大きな雨であったからであります。しかし、できるだけ最善の努力をして、私たちも任務を終えたということになるのではないかと思います。

事務局の努力、また、皆様方のご理解、毎回ご出席いただきました、そのご尽力にも大変感謝して、本当に良い河川整備計画の改定案ができたことを喜びたいと思います。

どうも皆様、ありがとうございました。